

29 【なんじゃこりゃ】

何にもない空き地に、足をふみいれたとたん、
「なんじゃこりゃ」

と、おもわずぼくはさけびました。

これがさけばずにいられようか。

さけんだついでに、おしっこをもらしそうになりました。

いくらなんでも、きもちわるすぎる。

なんといったらいいのか。

蚯蚓（みみず）を百匹むすんでみたら、その百匹がそれぞれにもだえくるしんでいるかんじ。

大百足（むかで）の、大きな百の足が、やっぱり百足になっていて、その中百足の、中くらいの百の足が、やっぱり百足になっていて。

前に、頭が三つある蛇をみたけれども、頭が三つそれぞれ勝手な動きをしているところが、きもちわるくて吐きそうになったものです。

それなのに、頭（どこが頭かわからない頭）が百もあるのだから。

蛇とちがって、ぼくをおそってくる気配はないけれども、みているだけでもうおそわれている気分になってくる。

ぼくは近所の村人に荒縄（あらなわ）を借りて、そいつで縛（しば）ろうとすると、つごうよく縛る前に荒縄にからんできて、ほぐれなくなったので、そのままひきづって、懐爺のところへ行きました。

「何じゃこりゃ」

懐爺は、わざとらしい大声をあげました。

「かいじいも、おどろくことあるんか」

ぼくがからかうと、懐爺は苦笑いして、

「これは、【なんだこりゃ】という名まえのおばけですよ」

ほんとかうそか、わかりにくかったが、懐爺を信じないで、誰を信じろというのだろう。

「【なんだこりゃ】かい。きもちわるいのう。なんとかならんもんかのう」

「何ともならんが、何にもしないおばけですよ」

「そらあ、ちがうべえ。きもちわるいというのは、なんもしないことかのう」

「なるほどですね。おぼけは、だいたいにおいて、大小にかかわらず、何かする。【なんじゃこりゃ】は、何もしないが、このきもちわるさは、何もしないより、おそろしい」

「なんもしないから、よけいにきもちわるい。なんかすんなら、けとばしてやるけんども、なんもしないなら、いくらきもちわるくても、けとばすわけにいかん」

「それですよ、金ちゃん。【なんじゃこりゃ】は、人間の目をきたえるおぼけなのです。金ちゃん、大人になっても【なんじゃこりゃ】から目をそらしてはいけませんよ」

いいながら懐爺は、【なんじゃこりゃ】を荒縄からといてあげると、静かに裏の竹藪に逃がしてやりました。

何か教訓（きょうくん）をきいた感じがしましたが、教訓はきれいなので（【なんじゃこりゃ】のきもちわるい姿とともに）すぐに忘れる努力をしました。